

令和3年度1学期始業式 校長から皆さんへ

皆さん、おはようございます。改めまして、校長の倉崎です。

こうして、皆さんと顔を合わせて新年度を始めることができ、何よりうれしく思います。

春休みの間、校舎や体育館、グラウンドやコートから皆さんの声が聞こえ、歌や音色が流れてきました。1年前の春は、部活動も全面休止となり、新学期早々、県下一斉に始まった休校期間は、学校の池から蛙の声だけが響いていたことを思い出します。生徒がいてこそその学校。そんな当たり前のことを痛感した日々でした。

この1年、我慢や辛抱が続き、実現できなかったことも多々ありました。が、皆さんは、この春の卒業生たちが、「高校生活をやりきる」ことを目標に最後まで力を尽くした姿も見たはずです。彼らと同じように、皆さんもこの経験をとおしてきっと何かを得て、今この場にいます。

感染症を巡る状況はいまだ一進一退の様相であり、楽観できません。世界でも私たちの周りでも、痛みを伴う辛抱はもうしばらく続くでしょう。でも、こんなときだからこそ、予防対策と、もうひとつ、「思いやり」を大切にしましょう。人を大切にすること、それはすなわち、自分も安心して学べる毎日をつくっていくことにつながると思います。

さて、我が松江南高校は、今年60周年を迎えます。皆さんもよく知るとおり、「60年目の改革」としてすでに新しい動きが始まっています。

まず、昨年度、文科省から5年間の指定を受けた、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業です。先進的な理数教育の実践を通じて、科学技術分野の将来を担う人材育成を進めていきます。

そして、いよいよ明日、新たな学科「探究科学科」1期生が入学します。SSH、探究科学科、これらの改革は、決して一部の生徒だけのものではありません。南高の学び全体にかかわる新しい風であり、誰にとっても可能性が広がるチャンスになると思っています。

この時期に南高生である皆さん、そして私たち。せっかくなら、この南高で「壁を越えよう」そう呼びかけたいと思います。好き嫌い、得意不得意、文系理系、性別、国境、高い記録や立ちふさがるライバルチーム…。

私たちの中には、勝手に作ったり作られたりした壁がたくさんあります。でも、違う角度から見たら、あるいは、仲間と知恵や勇気を出し合ったら、立ち向かうことがおもしろくなっていくかもしれません。壁を乗り越えた先で、人の役に立ったり、みんなの笑顔につながったりすれば最高ではありませんか。

校舎内の随所に、合い言葉「気概」の文字がありました。勉強でも、部活動でも、「**気概をもって壁を越えていこう**」—これが新年度にあたっての、皆さんへの、そして私自身へのメッセージです。

明日入学する普通科61期生、探究科学科1期生を合わせて全校生徒787名。

みんなで令和3年度をつくっていきましょう。